



令和 5年 1月10日
和歌山市立西和佐幼稚園
園長 藪本 みゆき

園だより 1月号

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひ致します

2023年、新しい年がスタートしました。お正月はどのように過ごされたでしょうか。年末年始をご家庭でゆったりと過ごすことは、子供たちにとっては、普段とは違った特別な時間だったのではないかと思います。

今日から幼稚園が始まりました。冬の自然に触れながら、今まで通り子供たちが楽しいことを見つけ、夢中になって遊び込めることが出来るよう取り組んでいきたいと考えています。

3学期は、5歳児にとっては最後の園生活になります。3歳児、4歳児にとっては進級する前の大切な学期です。短い3学期ですが、一人一人が自分の力を十分発揮できるように、意欲をもって遊びや活動に取り組めるように、職員一同、努めていきたいと思ひます。

今学期も保護者の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願ひします。

◎鏡開き

正月の間、年神様が宿る場であった鏡餅を割り、無病息災を願ひながら、お雑煮やおしるこ、ぜんざいなどにして食べることを鏡開きといいます。鏡餅の鏡とは、お餅の丸い形が昔の銅鏡に似ているから。お餅をお供えし、開き、食べることで「1年を幸せに過ごすための力を授けてもらう」という意味があるそうです。

鏡餅は、包丁を使わず、手や木づちなどで餅を割ります。これは、年神様との縁が切れないように、また刃物で切ることを嫌っていたとも言われています。鏡開きは、毎年1月11日に行います。(地域によって違います)これから1年間、家庭円満を願ひながら、お餅のかけらも全て食べるのが良いとされています。園でも、子供達に鏡開きの由来をお話します。

今年度は、四季折々の日本の行事のいわれなどは、各クラスで、また時には全クラスで話す機会をもっています。それらに込められている人々の願ひに、少しでも興味関心をもってもらいたいと考えています。

年神様とは・・・元旦に家々に新年の幸せをもたらすために高い山から降りてくる神様が「年神様」であり、「正月様」「歳徳神(としとくじん)」とも呼ばれているそうです。昔の人は祖先の霊が田の神や山の神になり、正月には年神となって、子孫の繁栄を見守ってくれているのだと考えていたそうです。



はじめての行事絵本より一部抜粋



◎絵本の貸し出しについて・・・<1月13日(金)から開始>

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、しばらくの間行っていなかった絵本の貸し出しを再開します。

各クラスで、毎金曜日に3歳児、4歳児は1冊、5歳児は2冊の絵本を持ち帰りますので、週末、ご家庭でゆったりとした時間をもつていただき、親子で一緒に絵本を広げ、温かいスキンシップを通して、楽しい時間を過ごしていただきたいと思ひます。たとえ少しの時間であっても、子供たちにとっては自分が選んで借りてきた絵本を、お家の方が読んでくれる素敵な時間になると思ひます。よろしくお願ひいたします。

※引き続き、子供が借りる以外に、ご希望の方には貸し出しもしています。降園時に各自借りていただいて結構です。返却日は、絵本は月曜日、保護者向けの本は木曜日です。この場合は、貸出カードに返却日を記入し、保護者の方が返却してください。